

## ◇国際会議報告◇

**CMAC 会議（2025 年 11 月）出席報告**

SMBC 日興証券株式会社

株式調査部 Managing Director シニアアナリスト 大瀧 晃栄

公益社団法人日本証券アナリスト協会

企業会計第 2 部長兼国際第 2 部長 土谷 敬

（報告者：土谷 敬）

**1. はじめに**

2025 年 11 月 5 日及び 7 日、資本市場諮問委員会（Capital Markets Advisory Committee、以下「CMAC」という。）がオンラインで開催された。CMAC は、世界各国の財務諸表利用者の意見を IASB に対して定期的にインプットすることを目的に創設された組織である。日本からは、大瀧晃栄氏と筆者がメンバーとして参加した。

なお、大瀧氏は 2025 年 12 月末をもって任期満了により退任するため、今回の出席が最後となった。

**2. 議事一覧**

予定時間（ロンドン時間）	Agenda 番号	議事
11 月 5 日		
12 : 00-13 : 15	1	キャッシュ・フロー（CF）計算書及び関連事項
13 : 15-13 : 45	2	持分法
11 月 7 日		
11 : 40-12 : 55	3	無形資産
13 : 05-14 : 20	4	企業結合－開示、のれん及び減損

本稿では、会議で議論された主な内容について説明する。詳細な議事概要については、IFRS 財団ホームページに掲載されている Meeting Summary<sup>i</sup>を参照されたい。

### 3. 議事概要

#### (1) CF 計算書及び関連事項

##### 非継続事業の CF の表示

IASB スタッフは、①継続・非継続事業の CF を各項目に含める方法、②継続事業の CF のみを各項目に含め非継続事業の CF 純額を営業・投資・財務ごとに表示する方法、③継続事業の CF のみを各項目に含め非継続事業の CF 純額を別区分に表示する方法、を提示した。

多くの CMAC メンバーは、将来 CF の推定には主に継続事業を重視するため、②又は③を支持した。②は過去比較や非継続事業の見落とし防止に有用との意見があり、③は IFRS 第 18 号「財務諸表における表示及び開示」における純損益計算書の表示と整合する点などが評価された。

##### 経営者が定義した業績指標（MPM）の開示要求に含める可能性のある CF の小計

CMAC メンバーは、営業・投資・財務の CF 純額や税引前営業 CF は、MPM の開示要求から除外でき、CF 指標を調整するための有用な起点となると述べた。

##### 非継続事業がフリーCF（FCF）型小計の開示に与える影響

CMAC メンバーは、FCF の起点となる小計は継続事業のみを含める方が企業の継続的な業績を反映するため有用であると述べた。

##### CF 指標の MPM 調整に関する開示

多くの CMAC メンバーは、調整項目ごとに金額を明示することが有用であると述べた。

#### (2) 持分法

##### 利得・損失の全額認識

筆者は、日本の利害関係者が利得・損失の全額認識に強く反対していることを強調した。日本企業において関連会社や共同支配企業からの損益は非常に重要であり、これらの投資は子会社に近い性質を持つと見なすことが多いため、利得・損失の全額認識は経済的実態を歪め、財務業績を正しく表さない可能性があるとして主張した。一方で、関連会社への投資が重要性を欠く場合は、利得・損失が全額認識される場合があるとした。その上で、関連会社の損益が大きな割合を占める法域の企業に過度な影響を与えないよう、関連会社への投資が重要な企業については現行の要件を維持すべきと提案した。

## 開示

アップストリーム取引とダウンストリーム取引の開示については、CMAC メンバーからいくつかの意見が示された。

## 利益操作

IASB スタッフは、利得・損失の全額認識が利益操作の機会を生むかどうかを質問したが、CMAC メンバーの意見は分かれた。筆者は、日本の利害関係者にとって主要な懸念は利益操作ではなく、当期の財務業績が歪められる可能性であると主張した。

## （３）無形資産

### 現在の情報源

IASB スタッフは、初期的な調査結果として、①年次報告書において無形資産の情報の多くは記述セクションで提供されている、②財務諸表における無形資産の情報は限定的である、③無形資産に関する記述情報セクションと財務諸表の情報のつながりを理解することは難しい場合が多い、と説明し、CMAC メンバーは概ね同意した。

### 財務諸表における情報の改善

この質問に発言したすべての CMAC メンバーは、財務諸表でより詳細な情報を提供することは利用者にとって有用であると述べた。細分化方法として、①経済的性質による分類（維持費用と成長費用、営業費用と非営業費用など）、②研究費用について製品又はプロジェクト別に分類、③製品又はプロジェクトの開発段階による分類、が挙げられた。

### 新しい種類の無形資産に関連する情報ニーズ

IASB は、クラウドコンピューティング契約、アジャイルソフトウェア開発、AI 及びデータリソースに関連する適用上の問題を検討しており、これについて CMAC メンバーからいくつかの意見が示された。

## （４）企業結合－開示、のれん及び減損

### 特定の状況における一部の開示要求からの免除

ほとんどの CMAC メンバーは、情報の開示が法的又は規制上の要件に違反する場合、企業を開示から免除することは合理的であると述べた。

### 業績が目標を達成しているかどうかに関する記述

ほとんどの CMAC メンバーは、企業結合の業績が目標を達成しているかどうかに関する定性的な記述を得ることは、①経営者の説明をより適時に得られること、②事業戦略遂行能力や企業結合の業績をより適切に評価できること、③経営者の過度な楽観を抑制すること、から有用であると述べた。

### シナジー情報の開示が求められる M&A の範囲

多くの CMAC メンバーは、公開草案の提案である「すべての重要な M&A」ではなく「戦略的な M&A」に範囲を限定することに同意した。

「のれんが認識されない M&A」について、一部の CMAC メンバーはシナジー情報が有用である場合があると述べた。

「個別には重要性が低いが合計で重要な M&A」について、ほとんどの CMAC メンバーはシナジー情報が開示されなくても容認できると述べたが、一部の CMAC メンバーは、同じ戦略目的を達成するために行われた一連の重要性の低い M&A の集約情報は有用であると述べた。

### 目標及び期待されるシナジー情報の作成基準

CMAC メンバーは、目標及び期待されるシナジー情報がどのように作成されたかに関する情報の開示は有用であると述べた。

## 4. 次回の予定

次回の CMAC 会議は、2026 年 3 月 12 日及び 13 日の開催が予定されている。

---

<sup>i</sup> IFRS 財団ホームページ

<https://www.ifrs.org/content/dam/ifrs/meetings/2025/november/cmac/meeting-summary.pdf> 参照